

漢字の読みの習得に関する時系列分析

— 入門期の非漢字圏日本語学習者を対象に —

桑 原 陽 子
玉 岡 賀津雄
坂 野 永 理

要 旨

本研究では、大学の入門期の非漢字圏日本語学習者17名を対象に、漢字学習開始から終了までの113日(冬休みを含む)に渡って、漢字の読みの習得について継続評価を行った。1週間に1回、新出漢字(10回で各回10漢字)と既習漢字(9回で各回10漢字)の読みのテストを行い、コースの最後に、すべての漢字項目(100字)をテストした。新出漢字と既習漢字のテストを全課および各課で比べると、新出漢字と既習漢字の得点差が回を追うごとに大きくなる傾向があり、既習漢字の得点がかかり低くなった。さらに、テスト得点を指数平滑化法で変換して、学習者についてのクラスター分析を行った。その結果、新出漢字と既習漢字で学習者の習得傾向に違いが見られた。また、学習者の第1言語が漢字の読みの習得にほとんど影響しないことも分かった。年齢の高い学習者は、新出漢字の記憶には問題がないものの、既習漢字を覚えておくことが難しいことも示唆された。

【キーワード】 漢字学習、漢字の読み、時系列分析、指数平滑化法、非漢字圏日本語学習者

1. 目 的

本研究の目的は、約半年間の初級日本語コースにおける非漢字圏日本語学習者の漢字学習を対象として、個々の学習者がどのように漢字の読みを習得していくのかを継続的に観察することである。

非漢字圏日本語学習者にとって漢字の学習は難しいといわれており、適切な学習支援が必要とされている。限られた時間で効率よく学習するためには、学習者の負担をできるだけ減らすことが重要であろう。現在は、ワープロが普及しているので、自分で筆記再生できなくても漢字の読みと形態とが結びついて記憶されていれば、いくつかの候補から漢字を選択することで、漢字を「書く」ことが可能である。漢字を書くことは非漢字圏日本語学習者にとって困難な課題の1つであるため、漢字を書くことよりも読むことを優先して学習することによって、学習者の負担はかなり軽減されると考えられる(カイザー, 1998)。本研究で調査対象とする岡山大学留学生センター日本語研修コースの初級クラスでは、「丁寧体及び普通体を使った日本語での日常会話や意見の表明ができること。簡単な読み物を

読んだり、書いたりできること」を到達目標とし、漢字学習については、書くことは要求せず読みを中心とした授業が行われている。したがって、本研究では漢字の書きではなく読みの習得を取り上げる。

漢字の読みの習得がどのように進んでいくのかについて、実際の学習場面に即して長期間に渡って測定しその傾向を検討する研究を、マクロ的な研究と呼ぶことができよう(e.g., 加納, 1999)。現在のところ、漢字の習得をこのような視点から縦断的に検討した研究はほとんど見られない。例えば、高木(1995)は、3ヶ月という比較的長い漢字学習の期間において、漢字パターン認識能力と漢字習得との関わりを検討している。漢字の学習前と3カ月後の学習終了後との2回のテストを比較しているが、この研究方法は、「事前・事後テスト(pre- and post-test)」の手法であり、学習の継続的な測定を行っているわけではない。

本研究では、学習開始直後から学習終了までの5カ月間に渡り、1週間ごとに漢字の読みをテストし、読みの習得が時間とともにどのように変化していくか、またその変化は学習者によってどのような違いがあるかについて「時系列分析(time series analysis)」の手法を応用して検討した。また、新しく学習した漢字だけでなく、既に学習した漢字についても継続してテストを行い、既習項目がどの程度保持されているかについても分析を行った。さらに、すべての学習項目を網羅した最終テストも実施して、継続評価との関係を考察した。

2. 調査

2.1 調査対象

調査対象は、岡山大学留学生センター日本語研修コースの学生18名であった。学習開始時には、ほぼ全員日本語学習経験がなく、全員が漢字の学習経験がなかった。被調査者の平均年齢は29.1歳で標準偏差は3.84であった。学習者をランダムに9名ずつのクラスに分け、授業は両クラスともに同じ教材を使用し同じ進捗で行った。学習者の国籍は、バングラデシュ2名、ブラジル2名、フランス、インドネシア、スペイン、エルサルバドル、ミャンマー、ケニア、ガーナ、ラオス、モーリタニア、ジンバブエ、フィリピン、アルゼンチン、エジプト、タイが各1名であった。バングラデシュとブラジルが各2名ずついるので、第1言語、文化的背景が同じ学習者間での習得の比較を試みる。また、これらの学習者を他の学習者と比較することによって、第1言語、文化的背景の異なる学習者間で習得の違いを検討できるであろう。なお、国籍は異なるが、スペイン、エルサルバドル、アルゼンチンは第1言語がスペイン語であり、モーリタニア、エジプトは第1言語がアラビア語、ケニア、ガーナ、ジンバブエは英語である。これらの学習者の中で読みの習得に違いがあるかどうかについても検討する。

2.2 漢字の授業の概要

日本語学習を開始してから19日後に漢字学習を開始した。漢字の学習は文法の主教材『初級日本語 げんき』の「読み書き編」を用いて行った。漢字の学習は第3課から開始し、

12課までであった。1週間に2コマ（1コマ45分）を使って、1課（約15字）の漢字を学習した。漢字を読むことが授業の中心であり、漢字を書くことは要求しなかった。さらに1週間に1ないし2コマを使って漢字を含む日本語の文章を読む練習を行った。113日間（冬休みを含む）で合計145字を学習した。

2.3漢字テスト

各課テストは毎週1回行った。各課で学習した漢字表記語の中から使用頻度が高いと考えられる10語をその課で学習すべき単語として選択し、それをすべてテスト項目とした。3課から12課まで合計100語を選択した（各課のテスト項目は資料1を参照のこと）。テストは、テスト項目の単語の読みをひらがなで書くものであった。1回のテストでは、その課のテスト項目（以下、新出漢字とする）が10語と、それ以前の課で既に出題されたテスト項目（以下、既習漢字とする）の中から10語、合計20語をテストした。例えば、第10課のテストの場合、10課のテスト項目10語が新出漢字として、3課から9課までのテスト項目（70語）の中から10語を既習漢字として選択した。既習漢字の数は課を追うごとに増えていくので、テスト項目は、その中から万遍なく選択するようにした。新出漢字テストを10回、既習漢字テストを9回行った。また、コースの終了時に最終テストを行い、各課の漢字のテスト項目をすべて（100語）を出題した。

3. 分析と結果

18名の学習者の中で、1名は欠席が多かったので分析対象から除外し、17名を分析対象とした。また、1名の学習者が1回各課テストを欠席したので、欠席したテストの前後2回のテスト得点の平均値を代用し分析を行った。なお、各学習者に対して、英語力に関するアンケート調査を行った。その結果および各学習者の第1言語、年齢などについては資料2を、アンケート調査の詳細については資料3を参照されたい。

3.1 新出漢字および既習漢字テストの分布

各課の学習者ごとの新出漢字および既習漢字テストの平均得点を算出し、新出漢字テストの得点を縦軸に、既習漢字テストの得点を横軸にとり、プロットした。それを近似直線と共に図1に示す。17名の学習者について、新出・既習漢字テストの平均得点の相関をみると、 $r=.860$ ($p<.001$) で有意であった。基本的には、新出漢字テストで高得点を取る学習者は、既習漢字テストでも高い得点を取る傾向がみられる。学習者の分布でも、エジプトとバングラデシュ#2出身の学習者を除き、平均得点が高いところに集まっており、既習漢字テストは5点から10点の間に分布し、新出漢字テストは8点から10点の間に分布していることが分かる。全般的にみて、既習漢字テストのほうが新出漢字テストより難しいことを示していると言えよう。

3.2 テスト得点の時系列分析

新出漢字と既習漢字の各課テストの得点について、全体の変化をわかりやすくするために、それぞれ「指数平滑化法(exponential smoothing)」で変換した。指数平滑化法は、ある時点における1期先のテストの得点を予測するための手法として使われるが、同時に、

表1 各課テスト得点と指数平滑化法による得点および最終テスト得点

出身国	新出・既習	得点の種類	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	平均	最終	
インド ネシア	新出漢字	テスト得点	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9.90	99	
		指数平滑化法	9.90	9.91	9.92	9.93	9.93	9.94	9.95	9.95	9.96	9.96	9.86		9.92
	既習漢字	テスト得点	-	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10.00		
		指数平滑化法	-	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00		10.00
エルサル バドル	新出漢字	テスト得点	10	10	10	9	10	10	10	10	10	10	9.90	96	
		指数平滑化法	9.90	9.91	9.92	9.93	9.83	9.85	9.87	9.88	9.89	9.90	9.89		
	既習漢字	テスト得点	-	10	10	9	9	6	8	7	10	4	8.11		
		指数平滑化法	-	8.11	8.30	8.47	8.52	8.57	8.31	8.28	8.15	8.34	8.34		
ミャン マー	新出漢字	テスト得点	10	9	10	10	10	10	10	10	9	10	9.80	99	
		指数平滑化法	9.80	9.82	9.74	9.76	9.79	9.81	9.83	9.85	9.86	9.77	9.80		
	既習漢字	テスト得点	-	9	9	10	9	10	9	10	10	10	9.56		
		指数平滑化法	-	9.56	9.50	9.45	9.51	9.45	9.51	9.46	9.51	9.56	9.50		
ラオス	新出漢字	テスト得点	10	10	10	9	8	10	10	10	6	10	9.30	99	
		指数平滑化法	9.30	9.37	9.43	9.49	9.44	9.30	9.37	9.43	9.49	9.14	9.38		
	既習漢字	テスト得点	-	10	9	8	8	8	9	10	7	8	8.56		
		指数平滑化法	-	8.56	8.70	8.73	8.66	8.59	8.53	8.58	8.72	8.55	8.62		
ブラジル #1	新出漢字	テスト得点	9	10	10	9	9	8	9	7	5	9	8.50	94	
		指数平滑化法	8.50	8.55	8.70	8.83	8.84	8.86	8.77	8.80	8.62	8.25	8.67		
	既習漢字	テスト得点	-	10	10	10	8	9	5	7	3	9	7.89		
		指数平滑化法	-	7.89	8.10	8.29	8.46	8.41	8.47	8.13	8.01	7.51	8.14		
ケニア	新出漢字	テスト得点	10	9	10	10	10	10	10	10	10	10	9.90	100	
		指数平滑化法	9.90	9.91	9.82	9.84	9.85	9.87	9.88	9.89	9.90	9.91	9.88		
	既習漢字	テスト得点	-	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10.00		
		指数平滑化法	-	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00		10.00
スペイン	新出漢字	テスト得点	10	10	10	10	8	10	9	10	9	9	9.50	100	
		指数平滑化法	9.50	9.55	9.60	9.64	9.67	9.50	9.55	9.50	9.55	9.49	9.56		
	既習漢字	テスト得点	-	10	10	10	9	10	10	9	10	10	9.78		
		指数平滑化法	-	9.78	9.80	9.82	9.84	9.75	9.78	9.80	9.72	9.75	9.78		
ジンバ ブエ	新出漢字	テスト得点	9	8	9	9	10	10	10	10	8	7	9.00	97	
		指数平滑化法	9.00	9.00	8.90	8.91	8.92	9.03	9.12	9.21	9.29	9.16	9.05		
	既習漢字	テスト得点	-	10	10	10	10	8	9	10	8	8	9.22		
		指数平滑化法	-	9.22	9.30	9.37	9.43	9.49	9.34	9.31	9.38	9.24	9.34		
バングラ デシュ #1	新出漢字	テスト得点	7	8	10	9	8	10	10	10	10	9	9.10	94	
		指数平滑化法	9.10	8.89	8.80	8.92	8.93	8.84	8.95	9.06	9.15	9.24	8.99		
	既習漢字	テスト得点	-	7	7	7	8	6	8	4	6	4	6.33		
		指数平滑化法	-	6.33	6.40	6.46	6.51	6.66	6.60	6.74	6.46	6.42	6.51		
フィリ ピン	新出漢字	テスト得点	9	10	9	7	10	9	8	10	8	10	9.00	85	
		指数平滑化法	9.00	9.00	9.10	9.09	8.88	8.99	8.99	8.89	9.00	8.90	8.99		
	既習漢字	テスト得点	-	9	7	9	10	7	4	6	7	6	7.22		
		指数平滑化法	-	7.22	7.40	7.36	7.52	7.77	7.69	7.33	7.19	7.17	7.41		
アルゼン チン	新出漢字	テスト得点	9	9	10	9	9	8	8	9	9	9	8.90	84	
		指数平滑化法	8.90	8.91	8.92	9.03	9.02	9.02	8.92	8.83	8.85	8.86	8.93		
	既習漢字	テスト得点	-	8	6	9	7	9	5	7	3	3	6.33		
		指数平滑化法	-	6.33	6.50	6.45	6.71	6.73	6.96	6.76	6.79	6.41	6.63		
ブラジル #2	新出漢字	テスト得点	10	10	10	5	9	10	9	10	9	10	9.20	79	
		指数平滑化法	9.20	9.28	9.35	9.42	8.98	8.98	9.08	9.07	9.16	9.15	9.17		
	既習漢字	テスト得点	-	10	8	8	7	7	5	3	4	4	6.22		
		指数平滑化法	-	6.22	6.60	6.74	6.87	6.88	6.89	6.70	6.33	6.10	6.59		
モーリ タニア	新出漢字	テスト得点	10	7	8	10	10	8	9	10	8	9	8.90	82	
		指数平滑化法	8.90	9.01	8.81	8.73	8.86	8.97	8.87	8.89	9.00	8.90	8.89		
	既習漢字	テスト得点	-	10	9	8	7	7	6	7	6	5	7.22		
		指数平滑化法	-	7.22	7.50	7.65	7.69	7.62	7.55	7.40	7.36	7.22	7.47		
フランス	新出漢字	テスト得点	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9.90	99	
		指数平滑化法	9.90	9.91	9.92	9.93	9.93	9.94	9.95	9.95	9.96	9.96	9.93		
	既習漢字	テスト得点	-	9	10	10	9	9	10	10	9	10	9.56		
		指数平滑化法	-	9.56	9.50	9.55	9.60	9.54	9.48	9.53	9.58	9.52	9.54		
エジプト	新出漢字	テスト得点	5	0	6	0	5	6	6	7	9	7	5.10	26	
		指数平滑化法	5.10	5.09	4.58	4.72	4.25	4.33	4.49	4.64	4.88	5.29	4.74		
	既習漢字	テスト得点	-	3	3	2	0	2	2	2	1	0	1.67		
		指数平滑化法	-	1.67	1.80	1.92	1.93	1.74	1.76	1.79	1.81	1.73	1.79		
ガーナ	新出漢字	テスト得点	10	8	10	9	9	10	10	10	7	9	9.20	99	
		指数平滑化法	9.20	9.28	9.15	9.24	9.21	9.19	9.27	9.35	9.41	9.17	9.25		
	既習漢字	テスト得点	-	10	9	10	8	10	10	10	10	10	9.67		
		指数平滑化法	-	9.67	9.70	9.63	9.67	9.50	9.55	9.60	9.64	9.67	9.62		
バングラ デシュ #2	新出漢字	テスト得点	8	8	4	8	8	9	6	8	3	4	6.60	55	
		指数平滑化法	6.60	6.74	6.87	6.58	6.72	6.85	7.06	6.96	7.06	6.66	6.81		
	既習漢字	テスト得点	-	9	3	4	7	9	6	5	4	3	5.56		
		指数平滑化法	-	5.56	5.90	5.61	5.45	5.60	5.94	5.95	5.85	5.67	5.73		
		新出漢字 平均	9.18	8.59	9.18	8.41	9.00	9.29	9.06	9.47	8.18	8.88			
		既習漢字 平均	-	9.06	8.24	8.47	8.00	8.06	7.41	7.47	6.94	6.71			
		平均の差(新出-既習)	-	-0.47	0.94	-0.06	1.00	1.24	1.65	2.00	1.24	2.18			
		ピアソンの相関係数	-	r=.844	r=.791	r=.762	r=.846	r=.581	r=.776	r=.500	r=.363	r=.417	r=.860		
			-	***	***	***	***	*	***	*	n.s.	n.s.	***		
		t検定の結果	-	t=-1.46	t=2.70	t=-0.15	t=2.92	t=2.97	t=3.93	t=3.48	t=1.73	t=3.01	t=3.59		
			-	n.s.	*	n.s.	*	**	**	**	n.s.	**	**		

注：最終は最終テスト得点を示す。n=17。 *p<.05。 **p<.01。 ***p<.001。

比較的明瞭な傾向がうかがわれた。これも、相関係数についての考察と同様に、既習漢字テストのほうが新出漢字テストよりも難しくなっていくことを反映していると考えられる。

3.3 時系列分析に基づくクラスター分析

3.3.1 新出漢字テストの分析

新出漢字テストの素点を指数平滑化法で変換した数値(実際の数値は表1を参照のこと)を基に、日本語学習者の17名全員に階層クラスター分析を行った。クラスター分析の方法はグループ間平方連結法で、間隔の計算は平方ユークリッド距離を使用した。その結果、17名の学習者が4つのグループに分けられた。第1グループは5名(インドネシア、フランス、エルサルバドル、ケニア、ミャンマー)で、各課テストの得点がすべて9点以上と高く、第1回目のテストから第10回目のテストまで得点の変動はほとんど見られなかった。第2グループは10名(ラオス、ガーナ、ブラジル#2、スペイン、ジンバブエ、バングラデシュ#1、フィリピン、アルゼンチン、モーリタニア、ブラジル#2)で、第1グループと比較するとテスト得点がやや低めであり、各課テストの得点に多少の変動が見られた。第3グループは1名(バングラデシュ#2)で、さらに得点が低くなり、得点の変動も大きくなった。第4グループも1名(エジプト)のみで最も得点が低いレベルで横這いであった。

学習者の第1言語から検討すると、ブラジル#1、ブラジル#2は同じく第2グループに属し、バングラデシュ#1、バングラデシュ#2は属するグループが異なった。また、第1言語がスペイン語であるスペイン、アルゼンチンは同じく第2グループに分類されたが、エルサルバドルは第1グループであった。また、第1言語がアラビア語のモーリタニア、エジプトもそれぞれ異なるグループとなった。第1言語が英語であるジンバブエとガーナはともに第2グループだが、ケニアは第1グループであった。これらの結果から、学習者の第1言語から漢字の読みの習得を予測するのは難しいことがうかがわれる。

3.3.2 既習漢字テストの分析

既習漢字テストについても、新出漢字テストと同様にクラスター分析を行った。その結果、17名の学習者が4つのグループに分けられた。第1グループは7名(インドネシア、ケニア、スペイン、ミャンマー、フランス、ガーナ、ジンバブエ)で、各課テストの得点がすべて8点以上であり、高いレベルで得点の変動が小さかった。第2グループは3名(エルサルバドル、ブラジル#1、ラオス)で、第1グループよりも各課テストの得点がやや低くなり、得点に多少の変動が見られた。第3グループは6名(モーリタニア、フィリピン、アルゼンチン、バングラデシュ#1、ブラジル#2、バングラデシュ#2)からなり第2グループよりもさらに得点が低く、各課の得点の変動も大きかった。第4グループは1名(エジプト)だけで、他のすべての学習者と比べて大きく得点が低く、横這いであった。

以上のクラスター分析の結果を学習者の第1言語から検討すると、ブラジル#1、ブラジル#2は属するグループが異なるが、バングラデシュ#1、バングラデシュ#2は同じグループであった。また、同じスペイン語を第1言語とするスペイン、エルサルバドル、

アルゼンチン出身の学習者はそれぞれが別々のグループに属していた。アラビア語を第1言語とするモーリタニアとエジプト出身の学習者も異なったグループに属していた。一方、英語を第1言語とするケニア、ガーナ、ジンバブエは全員同じグループであった。したがって、新出漢字テストの場合と同様に、漢字の読み習得の予測に、第1言語の違いを直接に結びつけるのは難しいようである。

3.4 最終テストと各課テストの分析

コースの最後に行った最終テストでは、各課テストで出題したテスト項目(100語)をすべて出題した。最終テストの平均得点は84.5で、標準偏差は19.07であった(各学習者の得点については表1を参照)。

3.4.1 最終テスト、各課テストの相関に関する分析

新出漢字および既習漢字の平均得点と最終テストの得点の間で、17名の学習者についてピアソンの相関係数を算出した。新出漢字と最終テストの得点の相関は $r=.946$ ($p<.001$)、既習漢字と最終テストの得点の相関は $r=.917$ ($p<.001$)で、極めて高く、すべて有意であった。

次に、最終テストの得点、新出・既習両漢字テストの平均得点と学習者の年齢の間で、17名の学習者についてピアソンの相関係数を算出した。17名の学習者の年齢の平均は29.1歳で、標準偏差は3.96であった。最終テストの得点と学習者の年齢の相関($r=-.404$, $n.s.$)、新出漢字テストと学習者の年齢の相関($r=-.291$, $n.s.$)は、いずれも有意ではなかった。しかし、既習漢字テストの平均得点と学習者の年齢の相関は、 $r=-.562$ ($p<.05$)で有意であった。相関係数がマイナスであるので、年齢が高くなると既習漢字テストの得点が低くなる傾向があることを示唆しており、年齢が高い学習者は年齢が低い学習者と比較すると、既習漢字を保持しておくことが難しくなることがうかがわれる。

また、最終テストの得点、新出・既習両テストの平均得点と学習者の英語学習年数の間でもピアソンの相関係数を算出した。学習者の英語学習年数の平均は13.9年で、標準偏差は8.34であった。最終テスト得点との相関($r=-.024$, $n.s.$)、新出漢字テストとの相関($r=-.086$, $n.s.$)、既習漢字テストとの相関($r=-.040$, $n.s.$)は、いずれも有意ではなかった。したがって、学習者の英語学習暦と漢字の読みの習得との間にはほとんど関係がないようである。

3.4.2 最終テストの誤答分析

最終テストで得られた誤答を、その種類によって7つに分類した。最も多かったのが「無回答」で、全誤答数の200のうち76(38.0%)であった。他の124(62.0%)の誤答についてみると、「表記の誤り」が最も多く54(27.0%)であった。次いで「平仮名部分から類推した他の単語との混同」が24(12.0%)、「同じ漢字を含む単語との混同」が19(9.5%)、「不要なものを書いた」が6(3.0%)、「関連のある単語との混同」が5(2.5%)、「その他」が16(8.0%)であった。

「表記の誤り」とは正解と音声的に類似した誤答を指す。例えば「近く」を「ちがく」、

「電車」を「でんさ」と書いたようなものである。このタイプの誤答は、漢字で表記された単語の意味はおそらく正しく理解されているが、単語の発音およびその平仮名表記が正しく学習されていないために起こると考えられる。よってこれらの誤りは、漢字学習上の問題としてだけでなく、個々の単語の正しい発音と正しい平仮名表記をいかに定着させるかという問題としてとらえなければならないものであろう。

それに対して、「平仮名部分から類推した他の単語との混同」とは、漢字で表記された単語の意味が正しく学習されていないと考えられるものである。例えば、「使う」に対して「いう」、「長い」に対して「しろい」と書いた誤答が含まれる。このタイプの誤答は、送り仮名を手がかりに、自分の知っている単語を当てはめたと考えられ、個々の漢字の持つ意味は理解されていないであろう。

次に多かったのが「同じ漢字を含む単語との混同」である。これには、「学校」に対して「こうこう」、「午前」に対して「ごご」、「毎日」に対して「あした」と書いたものなどが含まれる。同じ漢字を含んでいる単語どうしは、意味的に何らかの関連がある場合が多い。上記の例でいえば、同じ漢字を含んでいることによる視覚的な類似性ととも、「学校」と「高校」、「午前」と「午後」のように意味的な関連性が強く、誤答が生じやすいと思われる。なお、「関連のある単語との混同」による誤答は、「右」に対して「ひだり」、「西」に対して「きた」のように、回答として書かれた単語の中にテスト項目の漢字が含まれていないものの、意味的に関係した単語と間違っている場合である。また、「不要なものを書いた」とは、「映画」に対して「えいがかん」、「女」に対して「おんなのひと」のように回答の中に正答を含んでいるが、不要なものまで書いてしまったものである。このタイプの誤答は、単語の意味はある程度分かっているようであるが、特定の単語を示す漢字とその発音とが完全に結びついておらず、余分なものまで書いてしまったのではないかと推測される。以上の3種類の誤りを合わせると、誤答数は30(15.0%)になり、意味的に関係した誤りも比較的多くみられた。

4. 本研究の総合考察

漢字の読みの各課テスト及び全課の平均得点についてt検定を行った結果、新出漢字よりも既習漢字のテスト得点のほうが低い傾向があり、学習者にとって学習した漢字をいかに長く保持しておくかが困難であることが明らかとなった。さらに、実得点を指数平滑化法で変換した数値についてクラスター分析を行った結果、新出漢字と既習漢字とでは学習者間の類似性が異なった。このことは、新出漢字と既習漢字では、習得のパターンが異なることを示している。新出漢字テストでは、学習者のほとんどが高得点のグループに属しているのに対し、既習漢字テストでは、新出漢字と比較して得点が低くなる学習者が現れ、学習者の分布が全体的に低いほうへ移動した。さらに、テストの回を追うごとに、新出漢字テストと既習漢字テストの得点の相関が低くなり、両得点の差が大きくなる傾向が見られたことも、両者の習得のパターンが異なる学習者がいることを示唆している。

これらの結果から、非漢字圏日本語学習者の漢字学習においては、新出漢字の学習と同

様に、既習漢字の復習にも重点をおき、学習した漢字を常に復習する必要があることが示唆される。また、クラスター分析の結果から、新出漢字、既習漢字とでは学習者によって習得の傾向が異なることが示されたことをふまえると、個々の学習者の習得状況に応じて、必要な学習者に対して復習のための課題を課すなどの方法も有効ではないだろうか。

一方、以上のように新出漢字と既習漢字とでは習得の傾向が異なり、既習漢字のほうが得点が低くなっていることは確かだが、全体としては、ほとんどの学習者が両テストにおいて高い得点を維持していることも事実である。本コースの最終的な到達度を示す最終テストの平均得点が高かったことから、それがうかがわれる。これは、テストの難易度が適切で、学習者のレベルにあっていたためであろう。テストの難易度が高すぎなかったことは、ほとんどの学習者が漢字学習に対する意欲を失わず、コース終了時まで高いテスト得点を維持できた原因の1つであろう。しかし、新出漢字・既習漢字テストともに高得点の学習者が半数以上を占めていることを考えれば、高得点の学習者に対しては、学習する漢字数を多くし、最終的な到達度をさらに引き上げることができたのではないだろうか。例えば、数回の各課テストを経た後、学習者の習得の度合いを考慮しながら、テスト項目を増やしていくなどの方法も可能であると考えられる。

次に、学習者の第1言語と漢字の読みの習得との関わりについて検討したところ、クラスター分析の結果、ブラジル#1とブラジル#2、バングラデシュ#1とバングラデシュ#2は、それぞれ属するグループが必ずしも一致しなかった。また、国籍は異なるが第1言語が同じである学習者たちも、属するグループは必ずしも一致しなかった。このことから、漢字の読みの学習に対して学習者の第1言語はあまり影響しないことが示唆された。一方、学習者の年齢とテスト得点との相関を算出したところ、既習漢字テストと年齢の間で負の相関が有意であったことから、既習漢字の読みの習得には学習者の年齢が関わっていることが示唆された。日本語研修コースは5ヶ月間のインテンシブコースであり、コース開始以前に日本語学習経験のない学習者にとっては負担が大きい。そのなかでも、年齢が高くなると、学習した多くの漢字を長期間にわたり記憶することが難しくなる傾向がみられた。入門期のインテンシブコースの場合は、学習者の年齢も十分考慮してカリキュラムを作成する必要があると言えよう。

最後に、学習項目の選定に関して今後の検討課題を述べる。漢字の学習初期段階においては、1つの漢字が複数の発音を持つこと、すなわち「漢字の多読性」が難しさの1つであるとされている(加納, 1995)。また、日本人児童の漢字習得研究によれば、特に訓読みのテスト得点は学習が進むにつれて低くなっていくことが示されている(Kaiho, 1989)。これらをふまえるならば、漢字の読みの学習においては、異なった複数の読み方を持つ漢字について、学習上特に注意が必要であると言える。この点から、本研究で選択された学習項目をみると、単語を構成する漢字には重複が少なく、1つの漢字について2つ以上の異なった読み方はほとんどテストされなかった。単語を構成する漢字が重複しているのは、「電車」と「車」、「学生」と「先生」など合計18語で、「五分」と「自分」のように異なった読み方が要求されるのは16語であった。また、そのうちの11語が「新聞」「新しい」「聞

く」のように音読みと訓読みとの重複であった。このような漢字の読み分けは、今後学習段階が進むにつれて学習項目として取り入れていかなければならない。学習の難易度を考慮しながら、どの段階でどの漢字を学習項目として選択するかについて検討することが、今後の課題である。

引用文献

- (1) カイザー・シュテファン (1998) 「『非漢字圏＝悲観事件』からの脱却－漢字教育から語彙教育へ－」『平成10年度日本語教育学会秋季大会予稿集』 25-31.
- (2) Kaiho, H., & Saito, H. (1989) Measuring various aspects of Kanji (Chinese characters) and its psychological implications. In S. Mizutani (Ed.), *Japanese Quantitative Linguistics*. Pp.151-163.
- (3) 加納千恵子(1995) 「漢字の読み分け指導に関する一考察－二つの音読みを持つ漢字について－」『筑波大学留学生教育センター 日本語教育論集』 10, 41-57.
- (4) 加納千恵子(1999) 「漢字教育の動向－情報処理科学や認知科学の視点から－」『月刊言語』 28, 70-76.
- (5) 高木裕子(1995) 「非漢字系日本語学習者における漢字パターン認識能力と漢字習得に関する研究」『世界の日本語教育』 5, 125-138.

資料1 各課のテストで出題された漢字項目の一覧

第3課	第4課	第5課	第6課	第7課	第8課	第9課	第10課	第11課	第12課
百	日本	山	東	会社	新聞	午後	住む	手紙	早い
四	日本人	川	出口	学校	仕事	名前	買う	好き	起きる
五	一月	元気	右	毎日	電車	雨	町	近く	使う
六	三時半	私	先生	東京	休む	来る	長い	明るい	働く
七	水	今日	学生	帰る	新しい	知る	道	病院	別
八	金曜日	女	外国	子ども	読む	家	自分	映画	一度
九	金曜日	見る	大きい	小さい	思う	古い	夜	歌	赤い
一時	上	行く	五分	入る	聞く	白い	朝	勉強	青い
十円	下	食べる	西	お母さん	何	書く	持つ	旅行	色
千	虫	飲む	大学	高い	車	話す	一年	岡山市	牛

注：下線はテスト対象の漢字を示す。

資料2 分析対象の学習者

国	籍	性別	第1言語	年齢	英語学習に関するアンケート結果					
					英語学習年数	英語の講義	論文要約	報告書を書く	新聞がわかる	論文を読む
インドネシア		M	インドネシア	33	6	N	3	3	3	3
エルサルバドル		F	スペイン	31	8	Y	4	4	5	5
ミャンマー		F	ミャンマー	33	20	N	4	4	3	4
ラオス		M	ラオス	27	0.3	N	3	3	4	4
ブラジル#1		F	ポルトガル	28	7	Y	5	4	5	4
ケニア		M	英語	25	20	Y	5	5	5	5
スペイン		M	スペイン	25	7	Y	3	3	4	5
ジンバブエ		F	英語	24	22	Y	5	5	5	5
バングラデシュ#1		M	バングラ	35	25	N	1	1	5	5
フィリピン		F	タガログ	33	20	Y	4	4	5	5
アルゼンチン		F	スペイン	31	24	N	4	3	4	4
ブラジル#2		F	ポルトガル	31	6.5	Y	5	4	4	5
モーリタニア		M	アラビア	27	3	N	4	4	4	5
フランス		M	フランス	23	12	Y	4	4	5	5
エジプト		M	アラビア	35	11	N	5	5	3	5
ガーナ		M	英語	25	23	Y	5	5	5	5
バングラデシュ#2		M	バングラ	28	22	N	5	5	5	5

注：英語学習年数の単位は年である。英語の講義の欄のYは「経験あり」、Nは「経験なし」を示す。

資料3 英語学習に関するアンケート調査表

1 何年ぐらい英語を勉強しましたか？()years

How long have you studied English?

2 大学で英語の講義を受けましたか？ Yes No

Have you taken any courses taught in English at the university you have studied before?

あなたは以下のことを、日本語を使ってどのくらいできると思いますか？それぞれの質問について1から5の適当だと思う数字に✓をつけてください。

How well can you handle the following situation in English? Please rate how difficult or easy these things are for you to do in English according to the 1 (very difficult) to 5 (very easy) point scale.

	Not at all ぜんぜん できない	With great difficulty あまり できない	Moderately difficulty ある程度 よくできる	With some difficulty よくできる	Very easily 非常に よくできる
3 論文の要約を書くことができますか？ Can you write a summary of your research paper?	1	2	3	4	5
4 調査や研究の報告書を書くことができますか？ Can you write a report about your survey or research?	1	2	3	4	5
5 新聞を読んで内容がわかりますか？ Can you understand the content of newspapers?	1	2	3	4	5
6 研究に必要な論文を読んで内容がわかりますか？ Can you understand the content of academic books and research papers?	1	2	3	4	5